

第32回 令和7年5月30日（金）

「アメリカで起きていることについて。」

ハーバード大学が外国人留学生のビザの申請を中止させられたり、転校をせまられたりして大変なことがあります。

私はいろいろなタイプの学校にいましたので、苦情をたくさん受けた経験があります。過去には近隣のお店にご迷惑をおかけしたこともあり、大変申し訳なく思っています。

ただ学校には過ちを犯す生徒もいますが、大部分は真面目にしっかりと学業に取組んでいます。そのときにはこんな学校はなくなればいいなどの心無い言葉をかけられたこともあり、大変悲しく感じました。

お怒りになる気持ちも十分わかったうえで、それでも一生懸命勉強している子どもたちの学びの場はやっぱり大切です。そこは社会の大人の皆さんにご理解いただきたいと考えています。

今回ハーバード大に不穏な動きを扇動するような学生がいたのかどうかはわかりません。ただ外国人の留学生が全員そうであるわけがありません。多くは真摯に学び、これから自分の国を支えるリーダーになるべき学生だと思います。

将来の国を支えるリーダーの若い心に傷をつけることは、きっと未来の世界に悪い影響を与えることにつながるでしょう。一刻も早い回復を望んでいます。

教育はすぐには結果の出ない事業です。10年後、20年後、それでも国を左右する大きな事業であることは間違ひありません。教育を疎かにすることは国を滅ぼすことにつながります。

教育の世界に憎しみの連鎖を持ち込んではいけません。教育は平和の大切さを学ぶ場所であるべきです。

日本でも研究の府である学術会議が揺らいでいます。学者のみなさんが戦争に異を唱える機会を奪ってほしくないと思います。

政治が荒れている時代だからこそ、教育は平和を守るべきだと思います。若者たちの心まで荒れることがないようにしてほしいと願っています。